

第 2 2 期 国立市社会教育委員の会（第 1 1 回定例会）会議要旨

平成 3 0 年 3 月 2 6 日（月）

〔参加者〕 倉持、市川、坂上、牧野、間瀬、佐々木、三上、古川、大河内

〔事務局〕 津田、井田、大城

倉持副議長 皆さん、こんばんは。これから国立市社会教育委員の会の第 1 1 回定例会を始めたいと思います。

本日は柳田議長が欠席なので、私、副議長の倉持がかわりに議長を務めさせていただきます。ご協力よろしくお願ひいたします。

それでは、事務局より資料の確認をお願いいたします。

事務局 では、資料の確認をさせていただきます。

まず、第 1 1 回定例会の次第でございます。続きまして、資料 1 としまして、東京都市町村社会教育委員連絡協議会、平成 3 0 年度第 2 ブロック研修会の内容検討資料。その下に、前回の会議でお配りさせていただいた資料 4 を再度配付ということで、挟ませていただいております。内容は前回と全く同じものになりまして、その 1 ページ目、2 ページ目の部分だけをお配りさせていただきました。続きまして資料 2 といたしまして、東京都市町村社会教育委員連絡協議会の、定期総会の開催についての通知でございます。その下、資料番号がございませんが、「委任状」と書かれたものを置かせていただいております。その下、資料 3 といたしまして、国立市文化芸術条例を配付させていただきます。

その他資料といたしまして、第 1 0 回定例会の議事録と、公民館だより、図書室月報、いんふおめーしょん、をお配りさせていただいております。

それと、ちょっと補足になりますけれども、お配りした前回の第 1 0 回定例会の資料 4 ですけれども、2 ページ目以降ですけれども、今後の議論で参考になる部分があるかと思つて、4 部だけ印刷してありますので、各テーブルに一部ずつ置かせていただきます。お持ちの方はお持ちのものを使つていただいでいいんですけれども、お持ちでない方で、きょうの議論の中でもし参考にする部分がありましたら、こちらもあわせて見ていただければと思います。

資料確認は以上でございます。

倉持副議長 ありがとうございます。

皆さんに事前にご連絡があつたかと思うんですけれども、前回の第 1 0 回の会議のときに予定されていた、きょうの議題と中身が少し変更がありまして、きょうの主な議題は、今、ご説明がありました東京都市町村社会教育委員連絡協議会ブロック研修会の内容を、少し早目に検討しておこうと、そういう中身になっておりますので、ご了承ください。

それでは資料 1 について、事務局から説明をお願いします。

事務局 今、副議長からお話ございましたとおり、議題の内容を予定と変更させていただいております。本日お示しする予定でした生涯学習計画の骨子案については、庁内検討委員会を開催してきていますが、その経過については本日の議題終了後に、改めてご説明させていただければと思います。

資料 1 の内容について、大城のほうから説明をさせていただきます。

事務局 前回、皆様に依頼させていただいたブロック研修会の内容の検討ですけれども、参考に予算等々の資料をまとめさせていただきました。研修会自体は10月、11月とまだ先なんですけれども、5月の役員会でテーマ、内容の報告が必要ですので、今日皆様にいろいろ議論していただけたらと思います。

まず上から、平成30年度のテーマは「知の共鳴『学ぶこと』『つながること』その先へ」となっています。これはまだ仮の段階で、来月の4月21日の定期総会で、確定する予定になっています。

予算ですが、各ブロック6万円ずつになっています。これは例年同じ予算で、今年度についても6万円を予定しています。ただ、平成29年度の昭島市さんのほうで繰越金がありまして、1万3,062円、こちらも使用できることになっていますので、平成30年度については、トータル7万3,062円が予算になっております。

会場の候補ですけれども、体育館、公民館、市役所など、なるべく使用料がかからない会場を検討しています。

次に人数です。第2ブロックは、毎年変わらずここに挙げている6市になっています。参加人数の参考としまして、平成28年度の実績は立川市さんが幹事市のときで49名、平成29年度については39名となっています。

実施時期については、10月から11月の土曜日か日曜日を予定しておりまして、なるべくほかのブロックとかぶらない日程で調整する必要がありますので、なるべく早目に確定したいと思っています。次回の定例会までに皆様の日程をお伺いして、候補日を第1希望から第3希望まで挙げて、5月の役員会で、国立市が幹事市として出席する予定になっておりますので、その役員会の場で他ブロックと日程調整した上で、日にちを確定したいと思っています。

研修の時間自体は、長くて3時間ぐらいのブロックもあるんですけれども、おおむね2時間から2時間半程度になっております。

ページをめくっていただいて、こちらは平成24年度、前回国立市がブロック幹事市となったときの、予算書の内訳になっております。この年も同じ6万円、繰越金を合わせて7万5,000円ぐらいの予算になっているんですけれども、会場使用料が約4万円、講師謝礼が2万7,000円、消耗品代が1,026円、これは恐らく講師をお招きしているの、その講師1人に対するお水ですとか紙コップとか、少し消耗品がかかっております。

今回は会場使用料がかからないので、参考までに去年の昭島市さんは、口頭レベルで申しわけないんですけれども、消耗品は大体2万円ぐらい。これは全員に茶菓子を配っているの、2万円ぐらいの予算になっています。講師謝礼が3万円。会場費は、市役所のロビーでやっているの、0円になっております。

次にページをめくっていただいて、こちらは国立市がブロック幹事市をやったときの研修の活動報告になっています。こちらをあわせて目を通していただけたらと思いますが、このときは2部構成で、第1部は大学の教授をお招きして講演していただいたのと、第2部で、事前に各市から学校支援の具体的な例というテーマでレポートを提出していただき、そのレポートの発表と、その発表内容に関してグループディスカッションという構成でやっております。

資料1の説明は以上になります。

倉持副議長 ありがとうございました。

今ご説明いただいた資料に加えて、さっきもありましたけれど、前回配っていただいて、もう一度配っていただいている、この3年分ぐらいの各ブ

ックのテーマと内容の概要、ちょっと字が小さいですけども、ということです。

きょうやろうとしていることは、私たちが今度の幹事市になりますので、ブロック研修会の内容をどんなことをやろうかということ、きょうはまずいろいろとご意見、アイデアを出していただいて、もし方向性がかめたらいいなと思うところです。

まず、今、資料1の中で出していただいたのは、6年に1回担当が回ってくるので、6年前の国立市が当番だったときの記録を、きょうつけてもらっているわけです。ということも頭に入れていただきながら。

それから今年度は昭島市が担当市で、第2ブロックは「豊かな地域に必要なこと～地域のつながりをめざして～」というテーマで、少人数グループによる2種類のワークショップをやったということです。私、今年度のブロック研修は出られなかったのも、もしよろしければ参加された方に、今年度まずどんな感じだったかというのを伺いたいんですけども。牧野委員と古川委員が出られたんですよね。ちょっと、まず今年度どんな感じだったかというところを、ご感想、主観的なもので結構ですので、ちょっと周りの人の様子とか、中身とか、どんなものだったか教えてもらえますか。

秋ぐらいだったんですかね。10月末ぐらいかな。

古川委員 台風の時。

倉持副議長 台風。それは印象に残ってらっしゃいますね。いかがだったですか。

牧野委員 参加したんですけども、やっぱりすごい雨が降ってて、多分選挙の時期だったと思うので、予定していた会場がなかなかとりづらいということで、上のほうのロビーでちょっとやる形になって、すごいフラットの会場だったんですけども。

「豊かな地域に必要なこと～地域のつながりをめざして～」というテーマだったんですけども、まず講師の先生が少しお話をしてくださって、もう最初から、五、六人ぐらいのグループに分かれて座っていたんですけども、それをもとにじゃあ、自分の地域で豊かな地域とは、社会とはどういうことかということ、自己紹介を含めてそれぞれの地域がどんなだったかよかったかということ、話し合っ、でも、こういうこともあるんだ、ああいうこともあるんだということが、新たに発見できて、すごくグループディスカッション自体よくて。

2つ目の「参加のはしご」というのも、資料を使って地域がどういうふうにしていったらいいかというような、何が必要かということ、話し合っ、先生が総括をして終わりという形なので、割と一方的に講義を聞くということではなくて、交流も深まったので、とてもグループディスカッション自体は勉強になりました。

倉持副議長 ありがとうございます。古川委員はどうでしたか。

古川委員 そうですね、今思い起こそうとしているんですが、ちょっと資料を持ってくればよかったんですけど、自己紹介のときに、おもしろい自己紹介をしたなというのを急に思い出して。自分が嫌いなものとか、そういうのを当てるのか、何かそういう。

倉持副議長 お互いね。

古川委員 お互いに。で、そんなところから導入していったような気がして。非常にかた苦しなく、コミュニケーションがとれたんじゃないかなと思いました。

そして、他市の様子が非常に具体的に話してくださったので、そんなことがあるんですかって、驚きがすごく多かった印象があります。

倉持副議長 じゃあ、それぞれの各委員さんからの、身近な事例を出して交流ができたという。

古川委員 そうですね。はいはい。で、最後にやったのは、はしごの何でしたかしら、あれ。はしごで。

牧野委員 参加するにはどういう段階があつて。

古川委員 段階で行くかというので、それも幾つも選択肢があつて、その中から私はこう思う、でもほかの人は違うのを選ぶ、でもそれが間違いではないわけですよ、自分の考えで選んだわけですから。そういうので、正解は一つではなく、逆転しているのもあつたし、というところで、すごく和気あいあいに、キャーキャーというか、そういう和やかな会だったように思います。

倉持副議長 資料1を見ると、28年度、29年度で人数が10人も減っていると思いましたが、台風の中でも39人集まったということなんですよ。時期が悪かった。そう考えると、割と集まっているほうですよ。ありがとうございました。

その前の年、28年度の第2ブロックの研修会は、私は別の市の、立川市の社会教育委員だったので、それで参加したことがあるんですけども、これもやっぱりワークショップ型で、テーマは『社会教育・生涯学習が溶け込んだまちづくり』のために、わたしたちができること」ということで、やっぱりそれぞれ紙に、私たちが何がしたいかとか、できるとか書いて、それをお互いに見せ合って意見交換した記憶がある、やっぱりグループでのディスカッション方式で、先生からの講演というのはほとんどなくて、ちょっと話題提供ぐらいの形で、あとはずっと話していた記憶があるんですけど。

印象に残ったのは、中身もそうなんですけど、ツールというか道具で、テーブルは用意されていないんですよ。で、6人ぐらいで座ると、膝の上に何か丸っこい、段ボールの板みたいなのを載せて、それがテーブルのかわりになるという、そういう道具があるらしくて。それが、みんな協力しないと、きちんと膝の上に載せないと、テーブルにならないからうまく書けないというので、ちょっとした段ボールなんだけど、ちゃんと円になって、楕円だったかな、それをこの経費で買ったんだなって、今、思って。そういうツール、道具で試してみるというのもおもしろいなと思ったのも、印象に残ってます。

ほかの委員さんで、このブロック研修会、過去のものでも何か出られた経験のある方、いらっしゃいますか。

三上委員 あんまり参考にならないですが、今日資料の出ている国立市のやったときに、参加いたしました。

倉持副議長 そうですか。いかがでした？

三上委員 西友ビルの上でやったんですけど、私ともう一人で、下のエレベーターのご案内をしたことを思い出しました。そこからご案内して。

あと内容としては、そのとき、学校支援というテーマでずっとやってたんですよ。ですから、そのドンピシャのテーマでやりまして、地域としてはよかったですけれども、ただ、典型的に講師の先生、大学の先生のお話というのは長くいただいて、もちろん参考にはなりましたが、その後でブロックで話し合いをするという、典型的なそういう活動でありました。

倉持副議長 ちょうどあれですよ、国立市社会教育委員の会で、学校支援の答申か何かを出す前後のタイミングでやっているんですよ。

三上委員 そうですね。ええ。

倉持副議長 なので、こういうテーマになったということですね。

三上委員 はい。それでちょうど学芸大の先生が、そういうテーマでやっていらっしゃるといふ情報がありましたので、ちょうどよい話でお願いしたというのがありました。

倉持副議長 ありがとうございます。

この3年分の、1ブロックから5ブロックをざっと見ると、パターンとしては講演会、どなたか講師の先生か、あるいは地域の方に来てもらってお話を聞く。この講演会を、お一人来るパターンと、複数の方が来てパネルディスカッションをやる形式があると思うんですけど、そういうパターン。

それから各種の事例を紹介するとか、紹介し合うというパターン。これは恐らく事前に報告をお願いするテーマや中身に沿って、各市に依頼しなくちゃいけないと思いますけれど、事例発表というパターン。

それから見学のパターンもありますよね。特徴的な施設見学、せっかく当番市になっているので、紹介も兼ねて見学のパターン。

第2ブロックはたまたまこの2年間はワークショップというか、体験型学習というか、グループワーク、話し合いを中心とした、講演中心ではない体験型のワークショップと、自由な意見交換というのを組み合わせた感じで行われているという。

どれか一つに絞ってもいいし、今言ったものを少し組み合わせてもいいし。6年前はそういう意味ではかなり欲張って、講演会もして、事例報告もして、意見交換もしたという形でやったんだと思うんですね。他市の例でいうと、特徴的な施設があるから、その施設見学をしてから意見交換。意見交換はマストなのかもしれないですけど、せっかく6市の委員さんが集まるので。といったような形でどうも進めるようだという、傾向はあります。とらわれる必要はないと思いますが。

で、本日皆さんには、お一人お一人から、どんなテーマを立てたらいいと思うか。さっき言った「知の共鳴『学ぶこと』『つながること』その先へ」というのは、都市社連協全体のテーマなので、この第2ブロックのテーマ、こういうことをみんなで勉強しましょうというのを、決めないといけない。それからその内容や方法、どんな中身をやりたいか、あるいはどんな方法でやりたいかといったこと。それから、何かこういう人を呼びたいとか、こういう人の話を聞きたいというような講師のお勧めなんかも、おもしろいのがあれば。あるいはこの場所をぜひ、ほかの市の方に見学してもらいたいとか、

この場所でぜひやりたいというような、会場とか見学するものですね。あと、場合によったら予算の使い方。

まあ、どんなことでも結構ですので、まずちょっとそれぞれ、こんなことやったらいいんじゃないかというアイデアレベルで結構ですので、ご意見を、今のを網羅していただかなくても結構ですから、ご意見を言っていただいて、その上でじゃあ、こういう方向性かなというふうに、話を整理していきたいなと思います。

大河内委員 ちょっと質問していいですか。大河内です。全体のテーマですけど、「知の共鳴『学ぶこと』『つながること』その先へ」ってことなんですけど、このテーマはどのような趣旨のものなのか、説明みたいなものはないんでしょうか。

事務局 毎年度、東京都市町村社会教育委員連絡協議会で、年間テーマみたいなものを、このブロック研修会だけではなくて、都市社連協の活動全般の中で決めるんですけども、それが、30年度はまだ総会で可決はされていないんですけども、この「知の共鳴『学ぶこと』『つながること』その先へ」というテーマになります。

原則として、このテーマに沿った各ブロック研修会を開催してくださいということにはなっているんですけども、ただ、見てわかるように、あまり限定されていないテーマではありますので、そこまでとらわれることはないのかなとは感じております。

大河内委員 まあ、ある意味漠としているので、むしろこういう趣旨で決定しましたというものがあれば、そのほうが我々としても検討しやすいかなと思うんですけども、このテーマの、この1行以外の情報というのはないんですね。これはこういう趣旨で決定しましたとか、こういう議論を経て決まりましたとか、まだ決まってないんでしょうけど。

事務局 理事会のときにこのテーマが公表されて、そのときは確か、あえてテーマを広くしているというふうに、説明はされています。各ブロックが狭いテーマに絞られないように、あえて広くテーマを設定しているというふうに、事務局は理解しております。

事務局 補足ですが、ブロックの幹事ではなくて、全体の幹事市がある程度の決定権という言い過ぎですけども、考えられる部分もありますので、例えばその年の全体の幹事になっている市の、例えば市としての全体の方針と、少し関連させたりして、決めたりすることもあるというのは、過去に聞いたことがあります。

ただ、あまり狭まらないようにということで、今、説明があったとおり、広いような形で決めているというのは聞いております。

大河内委員 はい、わかりました。ありがとうございます。

倉持副議長 過去のも、今ここに配られている、小さく書いてあると思いますけど、関連性があると言えば、という大きな傘の中に、全体テーマ、統一テーマというのはあるようです。

間瀬委員、どうぞ。

間瀬委員 僕、具体的なテーマは、意見段階でも持っていないんですが、第2ブロック6市でやるということですから、国立市ですと今、社会教育委員の会では、生涯学習振興・推進計画についてやっていると思うんですね。それを全部みたいなと思いました。立川市から武蔵村山市が、この1年間といいますか、最近どういったテーマをやられているのかなというのを見て、何かそこから見えるものとか、共通するものとか、あるいはどこかの市のものが、別にその市に限らず、第2ブロックないし、多摩地域ないし、東京都ないし、日本全体の社会教育に関して、というようなテーマだなんて思えば、それが統一テーマの中からも、広っておっしゃっているので外れることはないんじゃないかと思っているんですが。せっかく第2ブロック6市でやるということは、今、自分たちが社会教育委員の会でやっていることと、かかわりが持てるようなテーマになっていたほうがいいのかと思ったので、今、ほかの市がどういうことをやっているのかというのも参考にはしたほうがいいのかと、個人的には思っています。

倉持副議長 今、間瀬委員がおっしゃったのは、各市の生涯学習振興・推進計画を、例えば紹介し合っていて、みたいな形の中身がいいんじゃないかということですか。

間瀬委員 じゃなくて、今、社会教育委員の会で、この市は今……。

倉持副議長 社会教育委員の会の今のトピック？

間瀬委員 トピックをそれぞれ。

倉持副議長 トピックを、紹介し合ってほしい。

間瀬委員 紹介し合ってじゃなくて、私たちが聞いて、知って、これだったらほかの市の方々も、第2ブロックの方々も、このテーマだったらみんな。

倉持副議長 知った上で、研修会を企画したほうがいいのか、っていうことですね。

間瀬委員 っていうか、テーマを決める。です。テーマが一番大事だと、僕思っていて、方法論はその後についてくるものと。予算とか、形式ですよ。で、そのテーマの決め方について、この6市が今、社会教育委員の会はどういった諮問、答申みたいなこととかをやっているのかなというふうにすると、関心を持って、参加人数ももしかしたら増えるかもしれませんし、というのがテーマの決め方の提案です。

倉持副議長 はい、ありがとうございます。

第2ブロックの集まりみたいなのはいいんですか。議長とか、何かトップ会談みたいなのはいいんですか。

事務局 ないです。理事会という、いわゆる会長市、副会長市、各ブロックの幹事市、会計などが集まるという会議体はあるんですけども、ブロック単位で集まる会というのはいないです。

倉持副議長 そうですか。はい、ありがとうございます。

前、別のブロックにいたとき、何かそういう会があると聞いたような気がするので、ブロックごとによって運営の仕方も違うんですね、きっと。

事務局 そうですね。

倉持副議長 はい、ありがとうございます。

今の間瀬委員のご意見は、今、それぞれの各市の社会教育委員の会で検討している課題がわかった上で、テーマを設定したほうがいいんじゃないか、そのほうがお互い今の課題に関心がつけられるから、というご意見でした。ありがとうございます。

それ以外のご意見で、いかがでしょうか。きょうは一応、お一人ずつ何かは言ってもらおうという、きょう出しておかないと次に決めていけないので、きょうはとりあえずまず出すということで、出していただければと思いますけど。こんなことやってみたいとか、こういう情報があるといいなみたいな、いかがですか。

牧野委員 私もやっぱり大河内委員と一緒に、テーマがすごく幅が広がったので、これ自体の内容もあんまりイメージしづらいところがあったんですけども、何か「知の共鳴」というと、あんまりまだ共鳴していないから、していこうとって、それを共鳴した上で未来につながるようなものかなというふうに思っ、3パターンほど考えたんですけども。

1つはまず基調講演をして、それで来ている方から質疑応答をして、ということで、具体的にその先生方がいいのかどうかわからないんですけども、私が思ったのは広井良典先生とって、今、京大の先生をしている先生が、つながることとか支え合いというようなことで本も書かれているので、難しいと思うんですけども、そういう講演会形式とか。

あと、大橋謙策先生は、やっぱり公民館活動をやってきて、地域福祉にも携わって、今もまだ学校の先生をされているので、実践を含めてそういう先生のお話とか。

宮城孝先生という先生も、今、大学の先生をしていて、東北の被災地にずっと入られて研究をされているので、例えば被災地の状況とかを話していただいたり、直接その人の意見を聞いた後で、その中から学んで、次にどうやって自分の地域で災害があったとき、つなげていくのかという話ができたらいいいのかなというのと。

あと2パターン目なんですけれども、せっかく国立でやるということですし、やっぱり体験型のほうがすごく印象が深くなるので、滝乃川学園というのが知的障害とかであるので、そこに施設見学に行って、状況とかを見て、可能であればそこにいる人たちといろいろ交流を持って、その中から学んで、次の地域でつながっていくことを考えられたらいいのかなというのと。

あと、立川も同じブロックになっているので、至誠学園というところがあって、そこは養護施設で子どももいて、高齢者もいて、というところで、世代間交流ができて、その中から学びを深めていって、先につながるものを見出し、いけたらいいのかなと思ったのと。

あと、多分この「その先へ」というところで、ITとかもいろいろあると思うので、私とかはあまり詳しくないので、そういうものも個人的には勉強したいなとか。何か、そういうふうに感じました。

倉持副議長 今の、ITは3パターン目ですか。



牧野委員 はい。

倉持副議長 ありがとうございます。いろいろと出していただきました。基調講演がメインのパターン、見学、体験がメインのパターン、で、ITの何か。

このようにいろいろ出していただけるとありがたいんですけど、いかがでしょうか。

じゃあ、もう順番に、坂上さん、どうですか。

坂上委員 坂上です。こういうのって、難しいなと思うんですよね。つまりこういうテーマ設定自体がもう、何でもありっていうことだから、勝手に自分たちで考えるという。枠を決めてくれてあると、もうちょっと。好きにやれって言われるほど、人は困ることはないわけで。俳句だって、五、七、五でやりなさいって言うから、何となくできるような気がするみたい。

それと予算でいうと、6万円という制約はなかなか大きくて。ゲスト講師を呼ぶとき、学者の方ということが多いんでしょうけれども、いわゆる本当に、誰もが聞きたい、私どものNHK学園なんかでも、例えば尾木ママに来ていただくというようなときは、とてもこの額ではやれないわけなので、そうすると、しっかりはしているけれども、ありていに言ってしまうと比較的地味な話題で、お話を伺うと。それもまた、このテーマに沿ってやるような話だと、結局包括的なお話を伺うので、個別、具体的な参考にあまりならないというか、非常に道徳的に、そりゃ、そのとおりですよと聞いて、終わりになる可能性が高いような気がする。

逆に、実際には個別、具体的なお話が一番リアルで、いいとは思いますが、あまりに個別、具体的だと、それぞれの私がやっている活動とはかけ離れていく場合も多いので、自分に引きつけたとき、そんなに参考にならない可能性もある。例えば、どこかのお祭りで地域が活性化したとかいうようなことが、似たようなお祭りがここにあれば別ですけども、そういうことがないケースもたくさんあると。

というようなことを、宿題が出てからつらつら考えていて、そうすると結局、ノーアイデアということに傾きそうになってしまう自分が怖いんですけど。

一番なるほどと思ったのは、間瀬さんがさっきおっしゃった、各市の課題かどうかわからないですけど、それこそそれぞれが個別にやっている、課題というほど大げさでなくても、人が集まらないとか、呼びかける方法をどうしたらいいとか、それぞれが持っている具体的な悩み相談みたいなことができる場が、こういうところで成立すると、それは一つ一つの悩みなんだけど、それを後でまとめて見直してみると、全体の課題が見えてくるみたいな。

要するにこれ、その場でやっておしまいだと、アウトだろうと思っていて、後で全部その成果をもう一遍共有し直して、そこから共通の全体の課題を探してみたいなやり方がないのかなと。すみません、甚だ漠然としたことなんですけど、何となくそういう感じを持っています。

倉持副議長 はい、ありがとうございました。

では市川さん。

市川委員 統一テーマが大変難しく、つかみどころがないなど。知の共鳴ってどういうことかなと考えながら、小中学校で考えると、これから育成すべき資質能力というのがあって、その中に学びに向かう力というのがあります。そして方法論としては、主体的、対話的で深い学びをこれから求められていく

という部分があるので、子どものレベルからすれば、そういう話になるんだろうなというふうに思いながら、この学ぶということについて、やはり専門の先生からたくさんお話を聞きたいなというのが、まずありますので、基調講演が最初にあるといいのかなと思いました。

あとは先ほど来から出ているように、せっかく6市で集まっているので、6市の方と情報交換をしたいなという気持ちがあります。先ほど滝乃川学園と至誠学園という話が出ましたけれども、それも大変いいなと思いました。12月に校長会で、研修で滝乃川学園に行ったんですけども、大変勉強になって、自立と共生というんでしょうか、地域の中でしょうかいいのある方とどうかかわっていくかというところ、大変いい学びができたなというふうに思っているところです。

今の段階ではそういう感じですか。

倉持副議長 ありがとうございます。

事務局 途中なんですけれど、坂上委員さんと間瀬委員さんからお話があった関係で、秋の学習計画というわけではないんですけども、社会教育委員の活動記録という冊子がありまして、各市の社会教育委員の会だったり、生涯学習審議会だったり、今審議されている内容の一覧というのがあります。話の途中ですが、回させていただきます。

間瀬委員 これは最新ですか。28年度っていうと。

事務局 29年3月に出たものになるので、多分もう間もなく、次の29年度が来るんですけど、現状、今手元にある中で、最新のものになります。

間瀬委員 わかりました。1期前ということになりますかね。ほかがどういうふうに関が決められているか知らないですけど、できれば今、この期の、私たちだったら生涯学習振興・推進計画をやっていますし、ほかの市も多分そういう何かがあると思うので、もうすぐ出るんじゃないかということであれば、それを待ってもいいですし、各市にもう直に連絡して、今何をやってますかって聞いてもらってというのでもいいと思いますが、きょう決めなきゃいけないのであれば遅いんですけど、まだ余裕があるのであれば次回でも、今回の6市から来られる方が、今、何をそれぞれテーマに話し合っておられるかを知りたいなと思いました。参考まで結構ですが。

事務局 とりあえず回します。

倉持副議長 はい。じゃ、大河内委員、お願いします。

大河内委員 大河内です。先ほどテーマについてお伺いしたのはお話ししたとおりで、テーマが大きいので、もうちょっと限定して考えていかないといかんということだったんですけど、もともと何でもおさまるように考えられているということで伺いましたので、逆に難しいんですけど。

ただキーワード、学ぶこととつながることが並んでいるということで、自分の周りのことで思い浮かぶのは、哲学カフェとか、私、大学で哲学を教えているんですけど、子どものための哲学という研究分野がありまして、そこでテーマになるのは、一緒に問いを共有、哲学的な問いですが、して、そこで話をして深めていくことで、探求の共同体という言い方をしますけれども、

ある種物事を一緒に深めていこうという共同体が生まれるという話があるんですね。そのあたりの話を、子どものための哲学であるとか、あるいは哲学カフェを実践していらっしゃる方とかにお話を伺ったり、あるいは実際にそこでやってみて、どういう形でそれを、問いの探求の共同体が、立ち上がるのかどうか、その短い時間でどうなるかわかりませんが、そういうのを体験する機会みたいなものはできるかもしれないというのが、唯一思いついたことなんですけれど。

それは事前に考えていたことで、ただ先ほど牧野委員の提案をお伺いして、滝乃川学園を訪問するということはすごくいいなと思いました。

もう一つ、伺っていてテーマとしてあり得るのは、社会教育そのものをテーマにしていくような会ということを見ると、災害と社会教育みたいなものをテーマにして、どういう講師の方がいらっしゃるかも、ちょっと私には今わからないんですけれども、そういうのもあり得るかなと思いました。

雑駁でまとまりがないんですけれど、とりあえず思いついたことを述べさせていただきます。

以上です。

倉持副議長 ありがとうございます。

じゃ、三上委員、お願いします。

三上委員 初めの30年度テーマからはなかなか思いつかないんですけれども、逆に言えば何でもありというお話ですと、やっぱりどこでも共通的なテーマでいえば、学ぶという話は、今、私たちがやっていることもそうなんですけれども、学ぶということを何かもとにして、実践されている方のお話とか伺いながら、地域ごとの取り組んでいる様子などをグループでやるとか、というふうな話ができるかなという気はいたしますけど。非常に曖昧な言い方なんですけど。

倉持副議長 ありがとうございます。

じゃ、古川委員いかがでしょうか。

古川委員 私もテーマを読んだ瞬間、何からここに入っていけばいいのかとか、非常にわかりにくかったのが、大河内委員が質問されたのが、よくわかります。本当に私も、いまだに全然わからないというか。

つながることというので、滝乃川学園というのはいいかなと思うんですが、私たちは民生委員として何回か訪問しているんですが、もしたくさんの方がお見えになるならば、どうかなというところは。あまりたくさんの方が訪問すると、あちらではどうでしょうという感じがあります。至誠学園は伺ったことがないので、そちらのほうの情報もわかるといいかなと思いました。

今、子どもへ焦点が行っているのが、年齢構わず、年齢の高い方の学ぶことにどういうふうにつながっているかとか、両者がもし合体するようなところがあれば、いいなと思ってみたいと思いましたけれど。

私も本当に申しわけないんですが、きちんとしたものが用意できていないので、きょうは皆様のご意見を参考にさせていただきたいと思います。すみません。

倉持副議長 ありがとうございます。

では佐々木委員、いかがでしょうか。

佐々木委員 私も非常にこういうテーマは苦手で、私はスポーツをやっているんですけど、国立という小さなところで、今度市町村体育大会があるんですが、その中でバドミントンをここの体育館でやるんですけども、ほかの都市に比べたら、観客席がないとか、夏の暑いときに狭いところでやりますので熱中症の問題とかあって、戸を開けたら風が吹いて、バドミントンはだめとか、ほかのところでは、風が吹いても大丈夫なような仕組みをつくった、空調設備があったりするところがあるわけです。こういう何もない、ないないと言ったら、全然ないわけじゃないんだけど、非常に乏しいところで、どうやっているいろいろなことをやるかということになるんですが。

あと、私たちも時々障害者スポーツセンターさんと一緒に、しょうがいしゃの方とテニスをしたり、ブラインドサッカーしたり、いろいろなお手伝いをしているんですけど、生まれつきしょうがいしゃの人も、途中からけがをしてしょうがいしゃになった方も、自分がしょうがいしゃだと思っていないんですね。自分たちは、やることの限度が普通の人より少ないとしか思っていない。僕らも国立に住んでるけど、ないないと言ってるんじゃないくて、あるものを生かすというふうな考え方になってきて。

それと、国立の中には1人、雑誌とかプロスポーツ選手のメンタルトレーナーをやられている方がいて、物の考え方とかメンタル関係の方で優秀な方がいらっしやいます。ただ講師として呼び出すのに、予算が五、六万円とか、普通はマスコミに出られている方だったら、すぐ数十万円で、30万、50万は当たり前なので、ボランティアとして呼びすれば、そういうことをしていただけるのかなということ。

しょうがいしゃの方でも、パラリンピックやいろいろなことに出られている方であれば、当然そこまでにとんでもなく、届かないレベルの人もいて、みんな苦勞してやっっている中で、自分の苦勞話ができる人とかいけばお安い費用で、障害者センターか何かで申し込むとかでおれば、やってもらえるかなと思うんですけど。

あとは、あまり顔が広くないので、ほかの市に対して何を我々がPRできるか、ちょっと思い浮かばないので、雑多な意見ですけど、そういうことで。

倉持副議長 ありがとうございます。

間瀬委員、何か追加はありますか。

間瀬委員 今読んでみて、結構ほかの市って、言葉は悪いですけど、おもしろくないことやってるんだなと思いました。単に予算とかチェックしてるだけなんだなと思って。あと、計画の進捗をチェック、それ大事なことですけど、何か一個一個、その時々テーマを決めて取り組んでいるというところは、意外と少ないのかなと。これは今、1つの年度しか見ていないから、違うかもしれないので、そういう意味で共通のテーマを拾ってくるとか、あるいはどこかの市がやっているものに関して、これはすごくほかの市にも関係してくるから意義があるというのが、次回、資料が出てきたときに見出せるかどうか、やや不安というか、思いました。

何にせよ私の考え方としては、国立市が第2ブロックの幹事市ではありませんが、第2ブロックの6市全体を意識、イメージしたもののほうがいいかなという気がして、国立市のどこかとか、何かとかいうことは、全体で共通していればそれでいいとは思いますが、ゲスト、こちらがホストという認識はあまり持っていないです。ブロックでやりましょうという話だと思っているので、ブロック全体を意識して何かをやる、ということが大事なのかなというのがあります。

あとは、別に参加人数が集まるのが是だとは思わないですが、各市に宿題的なものを出して、それを発表しに来てもらうということにすれば、そういうことをやっていらっしゃるところもありましたから、必ず一定の方々が来て、それを報告されるということ言えば、形式、方法の話になってしまいますが、そういうことにすることによって一定数、全市から1人でも2人でも、来ていただくということにはできるのかなという事は思いました。

倉持副議長 ありがとうございます。

私、前に第5ブロックの幾つかの市の社会教育委員をさせていただいたときの経験では、第5ブロックは多分、議長・副議長連絡会みたいなのがあったので、ブロック研修会を練るときも、大分その中でやりとりしながらつくっていたんですけども、やっぱり間瀬委員がおっしゃったみたいに各市に宿題を投げて、例えば子どもの居場所とか、若者支援とか、何かテーマを決める。それは幹事市が意見を聞きながら決めて、それについて事例を持っていますかというふうに所属市に投げて、うちの市だったらこんな活動しています、野外キャンプやっています、うちの市だったらNPOがこんな活動していますというのを吸い上げて、で、各自自治体、15分とか20分で発表してもらって、その後ディスカッションという形で進めるのを、割と定番でやりました。

それが結構よかったのは、他の市と似たようなことをやっても意外と切り口が違ふのを知れるので、私たち社会教育委員の仕事をしていく上では、すごく具体的な事例で参考になったのと、講演会と違って、いいところも悪いところも聞けるというか、その後に意見交換会もあるので、今、こういうところはうまくいってると言ってたけど、こういうところで困っているというのも含めて聞けるというのは、非常にリアリティーがあってよかったなと思っています。テーマはある程度ないと、ばらばらになっちゃうんですけど、何かテーマを決めて事例を持ち寄るとするのは、当事者性も高まるので、いいんじゃないかと思いました。

あと、私が考えてきたり、今お話を聞きながら考えたのは、一つはしょうがいしゃの学びとか、しょうがいしゃ支援ということで、滝乃川学園なんかもいいと思うんですけど、公民館でもしょうがいしゃ青年教室を長年活動していて、他市に誇るというか、言い方はちょっとあれかもしれませんが、地道に積み重ねている社会活動があると思うので、そういったものをテーマに、国立の例を紹介しながら他市のお話も聞く。しょうがいしゃ教室なんかをやっている自治体も多いと思いますけど、人手不足、ボランティア不足というのいろいろなところで聞きますので、さっきのしょうがいしゃスポーツなども取り入れて、テーマの立て方だと思うんですけど、そういうお話を聞き合うということもおもしろいかなと思いました。

もう一つは、若者支援みたいなものもいいのかなと思いました。それは前、坂上委員に、NHK学園の通信教育に来ている若者は、今ほとんど、いわゆる通いの学校に行けない子たちや、ドロップアウトした子たちで、そういうフォローアップをかなりやっているんだという話を、この会議で聞いたのがすごく印象に残っているんです。また公民館の話になっちゃうんですけど、国立の公民館も若者支援に力を入れていると思いますので、そういう若者支援というのも現代的なテーマだし、他の市もそういったことに関心をお持ちなのかなというふうに思いました。

それからもう一つは、今期の社会教育委員の会で検討してきたことにかかわって、今回意見書というか、まとめたやつ何て言うんでしたっけ、この間大変な騒ぎでまとめたの、提案、意見、あれ、結構各市の事例を、皆さん分

担して集めてきたと思うんですけれども、その中であまり事例の集まらなかったところや、私たちがちょっと力を入れたいと思うところを何か1つ絞って、それをテーマにして、またもう少し深めるというのもおもしろいかなと思いました。

例えば、学習の成果を生かせるサポートの充実というのが、真ん中ぐらいの項目にあったと思うんですけれど、学んだ成果をどう生かすかというのは、全体テーマの「つながること」「その先へ」みたいなものとも関連するかなと思って、これは他の市も皆さん関心があるんじゃないかなと思いました。

それから適切な事業評価の実施というのも、大事なんだけどどうやって行われているかということで、今、国立の公民館で評価の取り組みを思考されているというお話でしたし、立川の委員会のほうでも、評価をしているんです。社会教育委員の会議で、計画で出した重点施策に対する評価みたいなものを、ここで練ってやるんですけれど、1個1個の事業というより事業の集合体の目標に対する評価をやっているんですけれども、社会教育委員がそういうふうにかかわっていくというのも今後出てくるんじゃないかと思うので、評価というのもあるかなと思いました。

というのが、私の意見です。

今、皆さんから出た意見を少し確認しますと、まずは各市の社会教育委員の会の議題、今の検討事項を踏まえてテーマを決めるという案。

基調講演を、つながりとか、障害福祉の関係とか、被災地の関係というお話を伺って、その上で意見交換、情報交換をするという案。

これは賛同者が多かったんですけれど、滝乃川学園とか至誠学園、両方見るのはちょっと無理かもしれませんが、お話を聞いたり、あるいは実際の見学ができるかどうかわかりませんので、その辺はまた確認しなくちゃいけません、交流したり、あるいは事例を伺ったりということ。

どうできるかわからないけど、IT関連。

各自それぞれの課題や悩みを出し合って、それを整理していくというような、共通課題を探す。これは割と話し合いやワークショップ形式になるでしょうか。

子どもたちの学びとの関連、生涯学習との関連で、学びについての基調講演、あるいはこれからの学びについての基調講演と情報交換といったこと。

哲学をテーマに、さっき子どもとおっしゃいましたが、子どもだけじゃなくて、きっと大人の人たちも関心を持つ話ですもんね。で、哲学カフェ、哲学についての学びということの講演、あるいは実際にそれをやってみるといったようなこと。

災害と社会教育といったテーマでの何か。

実際に社会教育を実践活動している人たちのお話や各地の取り組みを聞き合うという、実際から学ぶといったもの。

まちというか、つながりというんでしょうか、滝乃川学園に実際行くのは難しいかなという方のお話でしたけれども、つながりというところで何かできないか。

スポーツという切り口では、さっきのテーマとの絡み、ほかの委員との絡みでもあるかもしれませんが、しょうがいしゃスポーツなどで苦勞して、頑張っている人の実体験みたいな話を聞いてもいいんじゃないか、ということでした。

かなりいろいろ出たんですけれど、きょうここで決めるとか、絞るということではないので、またこうやって話してみてもうちょっとこういうのもいいんじゃないかと調べたり、考えたりする、あと私がさっき出した、若者支援とか、障害者支援、国立の公民館の取り組みとか、評価の話ですね、とい

うのも何かあるんじゃないか、というのが出ました。

まず事務局には、お手数ですが、ほかの5市で、今、社会教育委員の会議でどういったことを検討しているのか、議事になっているかということ、簡単なものでいいと思いますので、ちょっと情報収集していただきたいというのが1つです。

それから滝乃川学園は、見学とかを受け入れているのか、みたいなのは聞いておいたほうがいいですかね。一応情報としてあると、ちょっと聞いておいていただくといいかもしれません。

それから講師は、さっき具体的に牧野委員からお名前を挙げていただきましたけど、つかまるつかまらないかという問題もありますけれども、もうちょっとテーマが決まらないと頼めないということも、大物の名前が出ましたので、でも非常に具体的でありがたいんですけれど。他の皆さんも、きょう出たことなども念頭に、例えばこういう人にというのも、少し具体的に探したり考えたりしていただくというのも、来月までにいいかもしれませんね。

必ずしも講義スタイルでなくてもいいので、こういったテーマがいいんじゃないかということも含めて、ちょっと継続審議できたらいいんじゃないかなと思います。何か次回に向けて、皆さんのほうからご意見やご提案、追加情報等ありますでしょうか。

牧野委員 事務局に質問なんですけれども、例えば第2ブロックとなったとき、そのときじゃないと人数とかわからないと思うんですけれども、おおよその人数って、例年どれぐらいの感じなのかなと思ったんですが。

事務局 全体で、社会教育委員さんが何名いらっしゃるかまでは、ちょっと手元に資料がないんですけれども、最初にご説明させていただいたとおり、直近2年間の研修の参加実績という意味では、28年度が49名、29年度が39名。

牧野委員 それは第2ブロックだけの、ということ。

事務局 第2グループだけですね。はい。

牧野委員 ありがとうございます。

倉持副議長 これも、私、他の市で経験したことなんですけど、公開方式にすることも、たしかできるんですよ。例えば講演会と意見交換で、講演会の部分だけ市民に開くとかいうことも、できるはできたと思います。

あと、調布市さんか何かは劇をやってくれたときもあって、それはすごいユニークだったです。前半は劇を見て、子どものいじめか何かだったかな、親とか、学校とか、先生とか出てきて。それを見た後に委員さんの意見交換で、その前半の劇の部分だけ市民にも公開して、というのもやったことがあるので、多分そういう形でも、何かいい先生をせっかく呼び出して、私たちだけで聞くのはもったいないっていうんだったら、公開講座的な感じでもできたような気がします。

それも多分、企画の立てようだと思うので、ぜひそういうのも含めたアイデアも、出し合ってもいいんじゃないかなと思います。もちろん最初から最後まで一緒にやってもらうというのもいいんでしょうけど、ただ社会教育委員として議論するところが、また発散し合うということもあったりして、あくまで社会教育委員の研修会なので、その辺の狙いも考慮したということじゃないかなと思います。

ありがとうございました。ほか、何かありますか。

まだあと数カ月、再来月ぐらいには決まっていなくて大丈夫ですか。来月まで、もう一回検討の余地がありますかね。なので、少しまた皆さんのほうでも、思い浮かんだことや何か情報がありましたら、会議まで待たずに事務局のほうに情報をお寄せいただくと、次回の会議に資料として出していただければと思いますので、そのような形でお願いできればと思います。

では、このあたりで最初の議事を終わりにしたいと思います。

続きまして、本来きょう予定しておりました、生涯学習計画の庁内委員会の協議の進捗状況について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

事務局 今、副議長からお話がありましたとおり、本来ですと今日の会議で生涯学習計画の骨子案をお示しさせていただいて、今後、6月、7月までに内容についてご意見をいただきたいと考えていたところでございます。

この間の庁内検討委員会は、昨年夏に第1回目を開催いたしまして、その後少し期間が空いたのですけれども、1月30日に第2回の委員会を実施させていただきました。1月30日の委員会では、まだ確定はしていなかったんですけれども、皆様からおまとめいただく、1月の段階ですと直前になりますけれども、第22期社会教育委員の会からの提案についてということで、先ほど意見というお話もありましたけれども、最終案的なものをご提示させていただきました。合わせてその時に、第21期答申を参考にさせていただいて、計画骨子案のたたき台というものを作成いたしまして、1月30日の会議でご提示させていただきました。

たたき台については、会議ですと限られた時間になりますので、会議が終わりましてゆっくり見ていただいて、お気づきの点、修正したほうがいい点、私どもも含めて事務局に寄せていただきたいということで、お示しさせていただきました。

そして、委員から意見をいただいたところでもございまして、その意見を修正した形で3月20日に、第3回庁内検討委員会を開催させていただきました。そこで確定できればと事務局のほうでは考えていたんですけれども、その場でもいろいろご意見をいただきました。特に第21期の社会教育委員の会でも話し合った部分なんですけれども、生涯学習の概念的な部分、範囲だったり、生涯学習とは、というところですか、はっきりさせたほうがいいんじゃないとか、学校教育はどうするのかですとか、それ以外の部分についても多々ご意見をいただきまして、第3回、3月20日の委員会では、確定することができませんでしたので、継続審議とさせていただきました。また4月に第4回庁内検討委員会を開かせていただき、できれば確定して、4月の社会教育委員の会の定例会でご報告させていただければということで、今、進めているところでございます。

具体的な内容についてお示しできずに申し訳ないんですけれども、この間、庁内検討委員会の議論の経過については、以上でございます。

倉持副議長 はい、ありがとうございました。今ご報告いただいた内容について、何か皆さん委員のほうから、ご質問等ありますでしょうか。

三上委員 今の、確定することができなかったというのは、主な理由はどんなものですか。

事務局 庁内検討委員会の委員から、各種ご意見をいただいて、生涯学習の概念の部分であったり、その他の部分について、もう少しじっくり固めなきゃいけ



ないなというところで、お時間をいただきたいということで、3月20日の時点では確定できなかったというのが、正直なところでございます。

今後なんですけれども、当初お示しした中で、2月の段階で計画決定ということで進めさせていただければと思っておりましてけれども、社会教育委員の会は任期は4月までございますので、少し1カ月、2カ月ずらしていただくことで、吸収して進めさせていただければというふうには、現時点では考えております。

倉持副議長 予定どおりいけば、来月のこの委員会でご報告いただけるということですね。

事務局 できればそのようにと考えています。

倉持副議長 はい。ほかに何か、この件についてご質問等ありますでしょうか。

はい、ありがとうございました。

それでは続きまして、資料2、都市社連協の総会について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局 資料2について、ご説明させていただきます。

来月、平成30年度都市社連協の定期総会が開催されます。皆様にもぜひご出席いただきたいんですけれども、開催日時は4月21日土曜日、午後1時半から、場所は立川市女性総合センター・AIMを予定しています。内容は社会教育委員の表彰式と、平成29年度の事業・決算報告、平成30年度の事業計画など。講師を招いての講演も予定が組まれております。

資料に記載していなくて申しわけないんですけれども、皆様の出席可否を確認させていただきたく、出席可否の連絡を4月9日月曜日まで、事務局のほうへお願いします。今回欠席される方は議長に権限を委任しますという形で、委任状を提出する必要がありますので、印鑑を押印の上、お手元にある返信用封筒で生涯学習課までご返送お願いいたします。委任状の返信は、4月19日必着でお願いします。

当日、駐車場は、近隣の有料駐車場しかありません。ご出席される方は、極力公共交通機関を利用してください。

出席可否の連絡は4月9日、委任状の返信は4月19日まで、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上です。

倉持副議長 ありがとうございました。ただいまの件につきまして、何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは引き続きまして、資料3、国立市文化芸術条例について、事務局からご説明をお願いします。

事務局 資料3をご用意いただいてよろしいでしょうか。

こちらでございますけれども、ちょうど本日、市議会の定例会で可決されたばかりの、国立市文化芸術条例でございます。昨年の10月、11月の段階で、社会教育委員の会の定例会で、ちょうど素案ができて、パブリックコメントをやりますというようなご案内をさせていただきました。その後、市民の方々からいただきましたパブリックコメントでございますけれども、教育委員会の定例会ですとか、市議会に内容をご報告するとともに、年が明けまして、1月18日に第5回、最終回になるんですけれども、この文化芸術

条例の検討委員会が開催されまして、パブリックコメント、教育委員会、市議会での意見の取り扱いについて協議し、条例案の内容を固めたというところでございます。

それで1月30日にそのパブリックコメント等の内容を反映させたものを答申としまして、教育長に提出されました。

今月に入りまして3月15日、市議会の総務文教委員会で条例案に対する審議がされまして、委員会の場では全会一致で可決すべきものとされ、本日本会議が開催されまして、こちらの文化芸術条例が可決されたというところでございます。こちらの条例でございますけれども、4月1日に施行されます。

今後の流れでございますけれども、資料3の、ページ番号が振っていなくて恐縮ですが、おめくりいただいて第7条に、「市は、文化芸術施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術施策に関する基本的な計画を策定するものとする」とございます。これに基づきまして来年度、文化芸術施策推進のための計画を策定していくという予定になっております。計画の策定に当たっては、第7条2項にございますとおり、国立市文化芸術推進会議に諮りまして、策定していくという予定になっております。

簡単ですが、説明は以上でございます。

倉持副議長 ありがとうございます。この件につきまして、何かご質問はありますでしょうか。

間瀬委員、どうぞ。

間瀬委員 この計画の策定に当たっては、文化芸術推進会議に諮るということが載ってまして、この文化芸術推進会議は、第8条に「教育委員会が委嘱する10人以内の委員をもって組織する」とございます。こういったときに、委員に例えば市民の公募委員が2名とか、あるいは学識で教育関係者が1名とか、文化芸術団体関係者とか、そういう単に委員を集めるのではなくて、こういう専門の知恵を持った方を組織して、委嘱しようということになると思うんですけれど。

そもそもこういった文化芸術条例に関する話をここに持って来ている、机上に上がっているのは、私のほうからいろいろ言った流れがありまして、条例自体をつくる時、検討委員会がつくられ、そこに社会教育の関係者が入っていないことに関して、どうかなと思うということを、教育委員会のほうにも意見しましたので、この推進会議に関しましても、ぜひ学識の方とか専門の方を呼ばれるでしょうけれど、その中に社会教育関係者ということも入っていただくと、10人とありますけれども、その中の1人としてでも、誰を入れるという話ではなくて、肩書きといいますか、特性といいますか、というところに入れていただければいいなということ、この場で意見しておきます。

倉持副議長 ありがとうございます。

事務局 この件ですけれども、実は条例がどうなるかという部分はあるんですけれども、この10人を受けた規則みたいなものを案として考えておりまして、その中には学識経験者2人以内、文化芸術関係者5人以内、学校教育関係者1人以内、公募委員2人以内ということで、条例を検討していった委員と同じような内訳みたいな形に、今、案としては考えているということ、ちょっとご紹介させていただくことと、その内容で先日、教育委員会の定例会で

も規則の案を提案しておりまして、こちら、一応、条例が採択された後ということではあるんですけども、採択いただいているという、そのような状況でございます。

倉持副議長 ありがとうございます。

ほかに、何かご質問等ありますでしょうか。

その他、事務局から何かございますでしょうか。

事務局 次回の日程の確認だけさせていただきます。

次回定例会でございますけれども、4月23日月曜日の午後7時から、場所は本日と同じ3階の第3会議室で開催いたしますので、出席のほどよろしくお願いいたします。

倉持副議長 はい。委員の皆さんから、何かその他ございますでしょうか。

よろしいですか。本日は臨時の議長ですが、ご協力いただきありがとうございます。これで会議を終了したいと思います。お疲れさまでした。

—— 了 ——